



接客をするご利用者。ガラスの戸の向こうがデイのフロア

デイサービスにおける
社会参加

模擬就労 タイプ

デイ併設のパン屋で 就労に向けた トレーニングを実施

デイサービス 創心会リハビリ倶楽部茶屋町（岡山県）

模擬就労を経て3名が一般就労へ

「創心会リハビリ倶楽部茶屋町（以下、リハビリ倶楽部）」には、玄関を入ってすぐの場所に「Chaya-Café」という焼きたてのパンを販売する地域交流スペースがあります。そこは、ご利用者が接客やパン作りなどの就労を体験できる場であると同時に、近所の方が次々とパンを買いに来る人気のベーカリーです。

リハビリによる心身・生活機能の改善だけでなく、ご利用者の活動・参加能力をレベルアップさせる取り組みの一環として、平成27年に地元のパン製造販売会社の開業支援（リエゾンプロジェクト）を受け、Chaya-Caféをオープンさせました。これまでに7名（40代～70代）が模擬就労（無償ボランティア）によるトレーニングを重ね、そのうち3名が菓子製造業などへの一般就労につながっています。



交流スペースでパンを食べる園児たちを奥のフロアからご利用者が温かく見守る

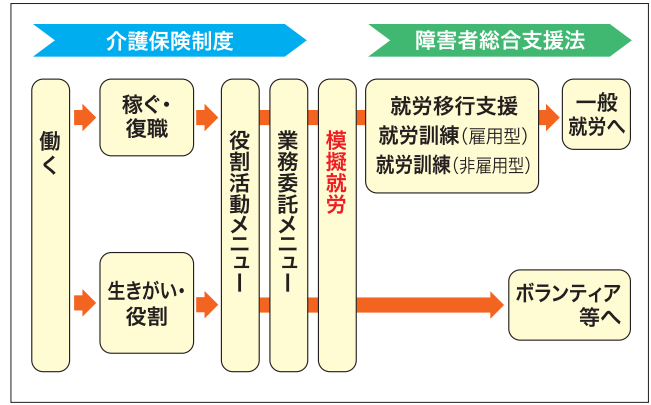
POINT-1

「働く」仕組みを整え、目標をサポート

リハビリクラブでご利用者が行う作業には「役割活動メニュー」と「業務委託メニュー」があります。役割活動メニューは、食事の準備や洗濯物をたたむなど、デイやご家庭での役割の獲得と生活機能の改善を目的としたものです。業務委託メニューは、地域の農家などから無償で依頼を受け、シイタケの菌床栽培や、果物の出荷用の箱を折る作業などで、社会の役に立つ実感を得ることができます。

このような活動を行う中で、ご利用者に「もっとやってみたい、働いてみたい」などの新たな目標が生まれると、Chaya-Caféでの職場体験をお勧めします。職場体験を経て、再度カンファレンスを行い、模擬就労へとステップアップ。さらに一般就労に向けたサポートができるよう、法人として体制を整えています(右図)。

活動・参加に向けた仕組みの全体像



POINT-2

「Chaya-Café」での模擬就労

現在、模擬就労を行っているHさんには片麻痺と失語症の症状がありますが、週に1回Chaya-Caféで接客やレジ打ちなどを行っています。以前デイサービスで行ったお菓子作り活動をきっかけに、就労への意欲を高め模擬就労を始めました。

レジの写真を撮って、自宅でレジ打ちの練習をするなど、訪問リハビリでのサポートも受けながら、今ではレジ打ちだけではなく片手でスムーズにパンの袋詰めも行えるようになりました。また、お客さまとの会話が失語症のトレーニングにもなっています。

事業所データ

創心会リハビリ倶楽部茶屋町

- サービス種別 / 大規模通所介護
- 定員 / 50名
- サービス提供時間 / 7-8h
- 平均利用者数 / 43.6名
- 平均介護度 / 要介護1.6



トンゴを使って袋の口を開け、片手でパンを入れる



介護職員のカフェスタッフが必要に応じてサポート

取り組みの効果

「ご利用者の社会参加の入口」を意識したChaya-Caféは、小学生を対象とした介護の職場体験「一日子ども社長」や地域に向けたマルシェ「Chayaの市」など、多世代交流の場としても発展し、デイサービスの様子を見た地域の方の介護のイメージアップにつながるなどの相乗効果も生まれています。また、模擬就労される方の姿を見て「自分もがんばろう」と意欲を高めたり、デイ終了後にパンを買って帰ることが家庭での役割になっているご利用者もいるなど、ご利用者のQOL向上にもつながっています。